

【東京都主催】 学生向け金融セミナー 1 日目

2019 年 11 月 16 日（土）13:00～17:00

1 世界と日本の経済情勢（濱島）

※資料「世界と日本の経済情勢」参照

1 世界主要国GDP 推移

（2018年時点において）世界のGDPは圧倒的にアメリカ（約20兆ドル）と中国（約13.3兆ドル）が占めています。

日本（約4.9兆ドル）は2009年に中国に追い抜かれて、少し減少しています。

また、インド（約2.7兆ドル）が徐々に追いついてきており、もうじきイギリスを追い抜く予想です。

2 世界人口推計

世界の人口は現在約77億人だが、2050年代後半には約100億人に達するとされており、その後、人口の増加は緩やかになっていき115億人～120億人程度で横ばいになると予想されています。

資産形成、投資（株式投資）を考えたとき、世界の人口が増え続けるということはGDPが増えることに他なりませんし、世界の企業利益が増えることに繋がると考えられます。

3 国別人口増減推計:2019 年～ 2050 年

投資を考える上で、国や地域別の状況をチェックすることもヒントになります。

世界的に人口は増加していますが、日本の人口は2015年の約1億2,700万人から2040年には1億1,000万人になるとされており、約13%減少すると予想されています。人口の減少＝日本の株は投資先として魅力的ではないというわけではなく、個別で分析していく必要があると考えられています。

4 株式時価総額

世界の時価総額上位企業を見ると、以前（1996年当時）は製造業が上位であったが現在はほぼIT関係の企業に変わってきています。この30年で流れが大きく変わってきているのです。

5 第4次産業革命

2016年経済産業省が作成した資料によると、日本はモノづくりを大切にしていますが、世界はデータの活用、AI、IoTなどが主流となってきており、日本は変革をしなければハード中心の漸進的イノベーションにとどまったり、海外のプラットフォームの上で我が国の産業が下請け化したりと、ジリ貧になる恐れがあるとされています。

投資をしていく際にはこういった産業に投資をするのかも大きなポイントになっています。

6 中国製造2025

現在の米中貿易戦争の根本的な原因は、この「中国製造2025」です。

「中国製造2025」とは、中国が2015年に発表した持続戦略であり、2025年までに世界の製造強国の仲間入り、2035年には世界の製造強国の中等レベル、2049年までに世界の製造強国のトップレベルを目指すといったものです。つまり、現在の最先端の分野を重点分野とし、あと30年程の間にはトップを取ると中国は謳っているのです。

米中貿易戦争の本質は、米中の覇権争いなのです。

＜10の重点分野＞

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 次世代情報通信技術 | 6. 省エネ・新エネルギー自動車 |
| 2. 先端デジタル制御ロボット | 7. 電力整備 |
| 3. 航空・宇宙整備 | 8. 農業用機械設備 |
| 4. 海洋建設機械・ハイテク船舶 | 9. 新素材 |
| 5. 先進軌道交通整備 | 10. バイオ医薬・高性能医療機器 |

7 米中貿易戦争の影響

世界の貿易量が2018年頃より減ってきていますが、これは、米中の貿易戦争が世界に大きな影響を及ぼしているからです。ですので、今後の資産形成を考えていくうえでは、米中の覇権争いも念頭に置く必要があります。

2 人生にかかるお金を知る（濱島）

※資料「人生でかかるお金を知る」参照

1 ライフイベントとお金

学生の皆さんは、これから様々なライフイベントを迎えると思います。

教育費、住宅費、老後の生活費の3つを人生の3大費用と言います。これからは、高齢化社会が進むにつれて介護費用も入れた4大費用と言われるようになるかもしれません。

2 教育費

どのような進路に進むかで教育費は大きく変わってきますが、例えば私立中高から公立大へ進学した場合は一人あたりおよそ1,500万円の教育費がかかります。

3 住宅費

住宅費も千差万別で、持ち家か賃貸か、首都圏在住か地方か、マンションか戸建てかによって変動します。住宅費は、購入費用に加え維持費もかかるので、億を超える可能性もあります。また、老後に老人ホームに入居することを想定すると、さらに出費が増えてきます。

4 老後の生活費

老後の生活費は現役時代にどんな生活をしていたかでバラつきがありますが、アンケートからは次のような結果となっています。

最低限の日常生活費：平均22万円/月（夫婦2名）

ゆとりある生活費：平均34.9万円/月（夫婦2名）

（「ゆとり」の内訳：1位 旅行やレジャー 2位 身内との付き合い 3位 趣味や教養）

総務省2017年家計調査によると、高齢者夫婦無職世帯は平均で約5万円/月の赤字とされています。

（209,198円（実収入）-263,718円（実支出）＝▲54,520円）

老後が30年とした場合、合計約2,000万円近くの赤字となりますが、これが話題になった老後2,000万円問題の根拠となっています（54,520円×12か月×30年＝19,627,200円）

人生100年といわれている時代ですので、学生の皆さんは長生きを前提に今から資産形成をしていく必要があります。



3 金融リテラシークイズ（頼藤）

※資料「金融リテラシークイズ」参照

Q 1 教育にかかるお金

幼稚園～高校 高校だけ私立（公→公→公→私立）の場合：約715.9万円

私立大学文系（文学・教育）：396.7万円

教育費総額：715万円＋396万円＝約1,100万円

▶解答②

Q 2 生命保険にかかるお金

ある大手生命保険会社にAさん（20歳・男性）が加入する場合

20歳～34歳 11,033円×12か月×15年＝約200万円

35歳～49歳 16,742円×12か月×15年＝約300万円

50歳～64歳 40,855円×12か月×15年＝約735万円

保険料総額：200万円＋300万円＋735万円＝約1,200万円

▶解答③

Q 3 住宅ローン返済額

金利0.5% 35年で3,000万借りた場合

借入額1,000万円あたりの月返済額

		金 利					
		0.5%	1.0%	1.5%	2.0%	2.5%	3.0%
返済期間	5年	¥168,793	¥170,937	¥173,099	¥175,278	¥177,474	¥179,687
	10年	¥85,451	¥87,604	¥89,791	¥92,013	¥94,270	¥96,561
	15年	¥57,676	¥59,849	¥62,074	¥64,351	¥66,679	¥69,058
	20年	¥43,793	¥45,989	¥48,255	¥50,588	¥52,990	¥55,460
	25年	¥35,467	¥37,687	¥39,994	¥42,385	¥44,862	¥47,421
	30年	¥29,919	¥32,164	¥34,512	¥36,962	¥39,512	¥42,160
	35年	¥25,959	¥28,229	¥30,618	¥33,126	¥35,750	¥38,485

3,000万円借りた場合：25,959円×3＝77,877円

▶解答②

Q 4 「72の法則」

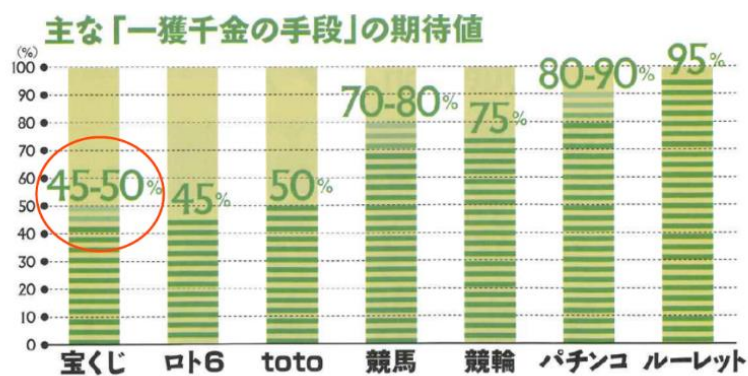
$72 \div \text{運用利率}(\%) = \text{元手を2倍にするためにかかる年数}$

100万円を0.01%の定期預金に預けた場合

$72 \div 0.01 = 7,200 \text{年}$

▶解答③

Q 5 賭け事では蔵は立たない



宝くじの期待値：45～50%

100円×45%＝45円

▶解答①

Q 6 お金が貯まる家計の方程式

- × 収入-支出=将来への備え
- 収入-将来への備え=支出

支出見直しの順番：固定費を下げる⇒無駄遣いを減らす⇒変動費を減らす⇒時間を減らす

先取り貯蓄の方法：①給与から天引き（財形貯蓄、社内預金）

②銀行口座から引き落とし（自動積立定期預金）

③銀行・証券会社などから積立（投信積立、つみたてNISA、iDeCo）

▶解答②

Q 7 手数料のかからない支払い方法は？

手数料なし：1回払い、2回払い、ボーナス一括払い

手数料あり：ボーナス2回払い、3回以上の分割払い、リボ払い

《リボ払いの恐怖》30万円の買い物のリボ払い（月5,000円）にしたら、
返済回数は155回、利息は47万円にもなります。

▶解答①②③



4 投資と資産形成の基礎知識（濱島）

※資料「投資と資産形成の基礎知識」参照

1 投資とは

そもそも「投資」とは何でしょうか？投資とは将来有望と思われる先に、もてる資源（お金、時間、体力、人間関係など）を投入することです。

投資の目的は、単にお金を増やすことではなく、そのお金でかなえたいこと（例えば趣味を楽しみたいとか、家を買いたい、豊かな老後を過ごしたいなど）が目的です。

また、投資の意義は、人生を豊かにすると同時に社会も豊かにする社会貢献であるとも言えます。世の中に必要とされている企業に長期で投資をする→企業の経営者はお金を活かしてより良い商品やサービスを生み出す→世の中が便利で豊かになっていく→企業が成長・発展すると株価の上昇や配当の増加という形で投資した人にもリターンがある→リターンを得れば消費や投資、場合によって

は寄付も増やし、豊かな生活を送る。投資することによってこのような好循環が生まれます。これから人口が減少する日本でも、個人金融資産を活かすことで豊かな社会にすることが出来るのです。

2 複利の力

今はあり得ませんが、例えば金利が5%の商品で毎月10,000円を積み立てた場合、10年で384,810円（1,584,810円-1,200,000円）、20年で1,766,297円（4,166,297円-2,400,000円）、30年で4,771,267円（8,371,267円-3,600,000円）増えます。

その増え方をよくみると、10年後から20年後には投資総額が2倍になっているのに対し、運用実績は約2.6倍（4,166,297円÷1,584,810円）になっています。10年後と30年後を比較すると、投資総額3倍に対し、運用実績5.2倍と（8,371,267円÷1,584,810円）さらに増えています。これが複利の力です。運用年数が長ければ長いほど、よりお金を増やすことができます。

皆さんはまだ20歳前後とお若いですから、時間を味方にすることができます。月10,000円でもこれだけの効果があるので、積み立て金額の大きさやより長い時間運用が出来ればさらに複利の効果を得ることができます。

3 リスク・リターン

リスクとは、値動きのことで、リスクが小さい＝値動きが小さいことを指し、リスクが大きい＝値動きが大きいことを表します。

過去のリスク・リターン実績を見てみると、高いリターンを得ることのできる資産は高リスクで、逆に低リスクな資産は低リターンであることがわかります。

4 投資の鉄則

投資をするにあたり大事なことはリスクを減らしながら、リターンを取っていくことです。そのためのポイントは「長期」「分散」「低コスト」、この3つです。この3つは大事ですので、夜寝る前にも唱えてください。長期とは長期間投資を継続することです。短期間の値動きで売買を繰り返すのではなく、長期間運用することが大事です。詳しくは後程お話しします。

分散とは、資産（銘柄）の分散や時期（売買）のタイミングの分散です。

低コストとは様々な手数料や税金のことです。これについても後程詳しくお話しします。

5 長期投資の効果

保有期間が5年の場合は収益率にバラつきがあるが、保有期間が20年の場合は収益率が安定している。このことから、長期間続けることで、安定したリターンが得られると言えます。

資産形成で大切なのは元手ではなく時間です。

6 ドルコスト平均法

ドルコスト平均法とは、定期的に決まった額を購入する方法で、買う時期を分散することでリスク分散する方法です。値段が高ければ購入する数量は少なく、値段が低ければ購入する数量は多くなります。

7 資産形成の手順

- ① 資産形成・資産運用にまわすことができるお金を把握する
 - ・資産形成はこれから資産を作っていくことを意味します。収入からいくら積立に回すかを決めるのですが、「可能な限り」できれば良いですが、一方で今の生活を楽しむことも忘れずに！
 - ・資産運用は今ある資産をどのくらい運用に回すかです。当面の生活費（目安：半年から2年分）と、近い将来（3～4年先くらい）に使う予定のお金を差し引いた残りが運用に回すことが出来るお金です。
- ② ゴールを決める
やみくもにするのではなく、「家を買う」「老後資金を作る」など資産形成のゴールを意識しましょう。
- ③ 自分のリスク許容度を知る
年齢や職業、今ある金融資産、投資期間などから、自分自身のリスク許容度を知りましょう。リスク許容度とは、中長期的な資産形成を目指すときに、どの程度の不確実性を受け入れるかを示したものです。
- ④ 資産配分（アセットアロケーション）を決める
どういう資産にどのくらいお金を配分するかがとても大事です。この資産配分で投資の結果の8割が決まってしまう。
これから長期的に資産形成をしていく場合には、株式を中心に資産配分することをお勧めします。
- ⑤ 株式・REIT（不動産投資信託）・投資信託（中に何が入っているかが重要）など資産配分を決めたうえで商品を決めるようにしましょう。



5 トークセッション ～若手投資家を交えて～

A（30代女性）：会社員。投資歴約2年。つみたてNISA、ロボアドを活用

B（20代男性）：会社員。投資歴約5年。共働き、子供1人。2014年につみたてNISAを開始

濱：濱島

頼：頼藤

① 資産形成、資産運用を始めたきっかけは？

A：家族がやっていたので元々身近なものでしたが、年金が十分もらえなくなるのではというニュースが学生時代の頃に出始めて漠然と不安を感じ考え始めたのがきっかけです。社会人5年目の時に応援したい会社を見つけたのをきっかけに、長期投資をするようになりました。

B：大学に金融会社の方が来てくださる投資講義を受けて、将来のお金について考え始め、養老保険を始めたのが最初のきっかけです。

② 最初にどのように取り組み始めましたか？最初にしたこと・金融機関選択のポイント・商品選択のポイントは？

A：まず初めに、今も月2万円積立てで続けている、ロボットアドバイザーを始めました。今はつみたてNISAで投資信託もやっております。

B：グローバルファンド、米国を中心に投資信託を半分、もう半分は米国の個別株に投資をさせていただいています。

濱：Aさん、なぜロボアドをやろうと思ったのですか？

A：知識がなかったので、自動で運用してくれるということで始めました。

濱：なるほど。それで知識が付いたからつみたてNISAの枠上限まで掛けるようになったのですね。個別の株式はどういった観点で選んでいますか？

A：テレビで投資家の方が応援したい会社に投資すればいいと仰っていて、ただ単にお金儲けのためではなく、社会貢献につながれば良いなと思って投資をさせていただいています。これから伸びる介護業界等にも目を付けています。

濱：Bさん、若くて米国株投資をされている方は少ないと思いますが、こういった考え方でやってらっしゃるのでしょうか？

B：米国に最初に注目をした観点としては、国のGDPで見たときの成長率など、世界的に見てもアメリカが1番伸びているので最初はアメリカに注目しました。長期的に投資していこうと思っていたのですが、米国の経営スタイルについての本を読んだときに配当重視の経営をしている会社が多いと書いてあったため、配当金重視の投資をしようと考えました。

濱：アメリカの経営者は株主への還元についてよく考えていて、日本の経営者の場合はどちらかというとそれよりも社員を大事にするところ等、少し経営に対する考え方が違いますよね。なので、株主への配当に対しては米国と日本では多少違うのでそこに目を付けたのですね。

濱：お二方とも積立てもやってらっしゃいますが、こちらについても教えていただけますか？

B：銀行系のところで積立ての投資信託をやっています。グローバルファンドという日本を含め、全世界のいろんな国に投資しているファンドに積立てをしています。また、積立teしていくうえで自分の銀行口座と連携している方が良いと思い、ネット証券や、ネット銀行で積立てをしています。

A：つみたてNISAをやっています。他に、日本株や、先進国の株式、米国とグローバルファンドですね。

③ 資産形成を始めてよかったこと、失敗したことがあれば教えてください。

A：姉が短期投資をしていて、その影響で私も始めましたがその頃は知識がなく、急に株が下がることもあったので運用が難しくて、大分そこで損失を出しました。今は長期投資をメインで行っています。

B：私は大きな失敗はないのですが、米国の個別株についての大きいニュースなどがあつたりすると気になって確認する癖が付いてしまい、夜眠れずに寝不足になったりすることは多々ありました。

濱：投資で失敗する原因の多くは感情です。人間は、感情があるから投資に失敗するのです。群衆心理が働き、投資行動において人間は合理的に行動できなくなることが往々にしてあります。それらの人間の感情を排除した投資の仕方が、ドルコスト平均法や、つみたて NISA なのです。

濱：（資産形成を始めて）よかったことがあれば教えていただけますか？

A：長期だけにしたら、少し下がったくらいで気にならなくなりました。また、ロボアドや NISA は勝手に運用してくれるので気にならず、ストレスフリーになりました。たまに少し下がってしまうこともありますが、今となってはプラスなのでやって良かったと思います。

B：長期的に毎月積立でしていくことで、（自分の資産が）プラスになっているのかマイナスになっているのか知りたくなります。自分の持っている株とシンクロしたニュースを見ているうちに経済ニュースや新聞に書かれていることが以前より理解できるようになり、ニュース等を見るのが面白くなりました。

頼：投資することでニュース見るようになりますよね。アメリカでは雇用統計が毎月第一金曜日の夜に発表されるのですけれども、その指標を発表したらマーケットに大きな動きがでますね。「なぜそうなるんだろう」と気になるようになり、かなり知識が増えます。これは仕事にも活かせるのではないかと思いますね。

④ 投資を続けていく中で心掛けていることはなんですか？また、勉強はどうされていますか？

B：私の場合は学生の頃に、大学の授業や証券会社が主催しているセミナー等に何度も行っていたところが勉強の原点としてあると思っています。今も続けている勉強はこれと言っているのではありませんが、さらに金融情勢について詳しくなるように経済に関するニュースを毎日見るようにしています。

A：私も同じく毎日ニュースを見て取り入れています。

頼：濱島先生はどのように情報収集されていますか？

濱：私はプロですが、とはいえ私もやっていることはそんなに変わりません。日経新聞とワールドビジネスサテライトとモーニングサテライトは必ず見ます。あとは、SNS などで考え方が素晴らしい人や世に影響を与えそうな人のことはフォローし、チェックするようにしています。

⑤ 今されている投資の目的は何ですか？

A：老後を豊かにするためと、会社を応援したいという気持ちです。

B：老後の生活水準を下げられる自信がないので、将来お金に困りたくないからです。

⑥（参加者より）これから投資を始める場合、こういった情報があれば役に立つのか等、投資初心者が始めにやっておいた方がいいことがあれば教えて欲しいです。

B：やはり最初は資産が少なかったりするのでマイナスが大きく見えてしまいます。ですので、ある程度自分が積み立てていけるような将来設計を見据えられたタイミングで始めるのが良いと私は思います。

A：知識をある程度得てから国が推進している、つみたて NISA 等のリスクが低いものから始めて慣れていくのがいいかと思います。

⑦（参加者より）株価を確認する頻度はどれくらいですか？

A：朝の 9 時、お昼休憩、仕事終わりに一日 3 回は見ています。

B：私の場合は、アメリカの株価情報は 15 分遅れて更新されるため、9 時 15 分のタイミングと、夜の 23 時 45 分（米国の取引開始時間（現地 AM9:30）の 15 分後）のタイミングに毎日必ず見ています。それ以外の時間でも google に株に関するニュースが上がってくるのでこういったニュースは逐一読んで株価のチェックをしています。

濱：株価のチェックはしないよりした方がいいのですが、そんなに頻繁にする必要もありません。ただし、持っている銘柄の決算発表があった時などは絶対に見た方がいいです。

頼：私は株価を毎日見ていますね。気になったなら見てもいい派です。いつ売るか買うかきちんとルールを定めておけば大丈夫だと思います。積立て投資の場合はずっとやるものなので、極意は積立て投資のことを「忘れる」ということですね。それが一番増える方法だと思います。

⑧（参加者より）お二人は初めて始める時にどういうところに相談し、実際に始められたのか教えてください。

B：いろんなセミナーに参加して、自分に合った投資方法をある程度決めてから証券会社などの窓口へ行って投資信託を選ばせてもらいました。

A：知識がなくても、手軽に始められるロボアドバイザーから始めました。個別株を買ったときは、周りの経験者に相談したりしました。

